

## 諸預言者への信仰



神が人類への教えの伝達手段として選んだ諸預言者に対する信仰は、イスラーム信仰において要求される信条のひとつです。

“使徒は、主から下されたものを信じる。信者たちもまた同じである。（彼らは）皆、アッラーと天使たち、諸啓典と使徒たちを信じる。私たちは、使徒たちの誰にも差別をつけない（と言う）。”（クルアーン2:285）

神は人間の預言者たちによって、かれの教えとご意思を伝達しました。彼らは人類への教えの伝達の役割を担うという意味では、天と地を結ぶ神が直接選んだ仲介役であり、これ以外には神からの伝達を受信する方法はありません。創造主と創造物の間でやりとりの出来る形態は、これ以外にはないのです。神は全ての人々に天使を遣わしたりはしませんし、人々の為に天を開き、その教えを受け取れるようにするわけでもありません。すなわち神が行なった方法とは、天使を仲介とした、人間である諸預言者へ伝達なのです。

諸預言者（または諸使徒）への信仰を持つということは、神が高潔な道徳観を持つ人間を選び、かれの教えを人類へと伝える役割を担わせたということを確認することです。彼らに従った人々は祝福され、彼らを拒んだ人々は哀れな結末を迎えるのです。諸預言者はその教えの内容を隠蔽したり、改変したり、不正を働いたりすることはなく、それを謹厳実直に伝えました。預言者を拒むことは彼を遣わした神を拒むことであり、預言者に背くことは彼に従うよう命じた神に背くことなのです。

神は全ての民族・国家に、彼ら自身の中から預言者を遣わし、神のみへの崇拝へと呼びかけ、虚偽の神々を放棄するよう命じたのです。

“あなた以前にわれが遣わした、使徒たちに問いなさい。われは、慈悲深き御方以外に仕えるべき神々を置いたのか。”  
(クルアーン 43:45)

またムスリム（イスラーム教徒）はアダム、ノア、アブラハム、イサク、イシュマエル、ダビデ、ソロモン、モーゼ、イエス、そしてムハンマド（彼らに神の称賛を）といった、イスラームの法的典拠の中でその名を言及されている諸預言者を信じます。またその名前に触れられていない者たちに関しても、彼らが遣わされたということを知るのです。神はこのように述べています：

“われはあなた以前にも、使徒たちを遣わした。その或る者に就いてはあなたに語り、また或る者に就いては語ってはいない。だがどの使徒も、アッラーの御許しによる外、印を齎すことはなかった。そしてアッラーの大命が下れば、真理に基づいて裁かれる。そのとき、虚偽に従った者たちは滅びる。” (クルアーン 40:78)

ムスリムは、イスラームの預言者であるムハンマドが最後の預言者であり、彼以降にはもう預言者や使徒が遣わされないと堅く信じます。

この事実を認識するためには、私たちは最後の預言者の教えが主要な典拠において元来の言語で今なお維持されていることを理解しなければなりません。この事実により、他の新たな預言者の必要性はないのです。ムハンマド以前の預言者が遣わされた後には、彼らの啓典が失われたり、あるいはその教えが改竄されることにより、真実と虚偽の区別が極めて困難になったりしたりしました。一方預言者ムハンマドの教えは明確であり、この世の終わりまで維持されるのです。

## 諸預言者が遣わされた目的

私たちは、以下の原因によって諸預言者が遣わされた理由を見極めることができます。

1) 創造物の崇拝から、創造主への崇拝、すなわち創造物への隷属から、彼らの主への崇拝という自由と人類を導くため。

2) この創造の目的を人類に対して明確にするため：すなわち神を崇拝し、その戒律を履行し、現世での人生は各々に対する試練であり、その試練とは死後にどういった人生を送るかを決定付けるものであること；そしてそれは永遠なる苦痛、または永遠なる至福の人生なのです。これ以外には創造の真の理由を理解する方法はありません。

3) 私たち人類に対して楽園へと続く道を示すため、そして火獄からの救済のため。

4) 人類への証拠として諸預言者を遣わし、審判の日に質問された際には言い逃れが出来ないようにするため。彼らはその時、創造の目的と死後の人生に関し無知であったという言い訳が出来ません。

5) 通常感覚と宇宙を超えて存在する未知なる‘世界’や、神への知識、諸天使の存在、そして審判の日の事実を明らかにする目的。

6) 人類に対し、道徳観、正しさ、そして目的を伴った人生を实践するための模範を示す目的。人間は本能的に他の人間を慕う性質があるため、人間にとって正しさの最善の模範は神の諸使徒のものであります。

7) 私たちの魂を物欲、罪、無頓着さから清めるため。

8) 現世と来世における人類の福利ゆえに神の教えを伝達するため。

## 彼らの教え

全ての預言者たちの最も重要な教えとは、神のみを崇拝し、かれの教えに従いなさい、というものです。ノア、アブラハム、イサク、イシュマエル、モーゼ、アロン、ダビデ、ソロモン、イエス、ムハンマドと、その他私たちの知らない者も含め、全ての預言者たちは人々に神のみへの崇拝を説き、妄誕無稽な神々の否定を求めたのです。

モーゼは宣言しています：“聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。”(申命記 6：4)

イエスはこの1500年後、同じ教えを繰り返したのです：“第一のいましめはこれである、「イスラエルよ、聞け。主なる私たちの神は、ただ一人の主である。」”(マルコによる福音書 12：29)

そしてイエスの約600年後、ムハンマドの呼びかけはメッカの丘々に響き渡りました：

“あなた方の神は唯一の神（アッラー）である。かれの他に神はなく、かれは慈悲あまねく慈愛深き方である。”（クルアーン 2：163）

聖クルアーンは明確にこの事実を述べています：

“（ムハンマドよ）あなた以前にも、われが遣わした使徒には、等しく、「われの他に神はない、だからわれに仕えよ。」と啓示した。”（クルアーン 21:25）

## 教えを携える者たち

神は、かれの教えを伝達するための、人類のなかでも最良の人物を選びました。預言者性とは、学歴のように習得・獲得をするものではありません。神はこの目的のために、かれが満悦される者を選ぶのです。

彼らは道徳観や品行において最良で、精神的にも肉体的にも適しており、神によって大罪を犯すことから守られています。彼らは教えの伝達において忘却や間違いを犯しませんでした。あらゆる国家や民族、そして世界の隅々にまで人類に遣わされた諸預言者の総数は実に十万人を超えていたと言われます。尚一部の預言者たちは、他の者たちよりも位が高いとされます。最も優れた者とされるのはノア、アブラハム、モーゼ、イエス、そしてムハンマド（彼らの神の称賛あれ）です。

人々は諸預言者に対する極度な排斥を行いました。彼らは拒絶され、魔術師、狂人、ほら吹きなどと罵倒されました。一方ではイエスのように、神々に仕立て上げられ、神のような力を持つ、あるいは神の子であるとされるような者もいました。

しかし現実には彼らは人間であって、神のような性質や力は備えていないのです。彼らは神を崇拝するしもべに過ぎませんでした。彼らは飲食し、睡眠し、普通に人として暮らしていたのです。彼らには人々に彼らの教えを認めさせる強制力や、罪を赦す特別な能力はありませんでした。また未来の予知能力は、啓示された範囲内に限られていました。それに彼らには宇宙の諸事を司る力もなかったのです。

諸預言者は神の無限なる慈悲と愛情によって人類に遣わされ、彼らは人々を最善の道へと導きました。神は彼らを人類への模範としたのです。そして彼らに服従すれば神の意思に沿った人生を送ることになり、それにより神の慈しみと満悦を得ることになるのです。